



《NEWS》

■「親子で土偶づくり!」を開催

文化財に興味・関心をもっていただくため、小学生を対象に土偶作りの体験イベントを令和6年8月14日(水)に開催いたしました。14組32名の親子が参加し、とても賑やかな催しとなりました。参加した子どもたちは、目を輝かせながら一生懸命オリジナルティあふれる土偶を作っていました。



■(公財)印旛都市文化財センター
40周年記念企画展
「印旛の珍品展～発掘されたあれやこれ～」

令和6年10月2日(水)～令和7年9月19日(金)の期間、当センター考古資料展示室にて企画展を開催いたします。今回の企画展ではセンター設立40周年を記念し、当センターの調査でこれまでに出土した遺物のうち、造形に特徴のあるもの、歴史的価値が高い資料を集めて展示を行います。この機会にぜひご覧ください。

*考古資料展示室開室日時
平日9時～17時(入室は16時30分まで)
(休室日:土・日・祝祭日・年末年始)

《令和6年度 調査を終えた遺跡》

- 《成田市》堀之内宮ノ台遺跡(第2次)(奈良・平安、中・近世)
- 《佐倉市》上座安土遺跡(第2次)(縄文、弥生、古墳、奈良・平安、中・近世)
- 《印西市》西ノ原第1遺跡(旧石器)
西ノ原第3遺跡(縄文、古墳、奈良・平安)

《令和6年度 調査を行っている遺跡》
(9月現在)

- 《成田市》不動ヶ岡榎田I遺跡(縄文、奈良・平安)
不動ヶ岡太田遺跡(縄文、古墳、奈良・平安)
不動ヶ岡中弘遺跡(縄文、奈良・平安)

《令和6年度 整理作業を行っている遺跡》
(9月現在)

- 《成田市》堀之内宮ノ台遺跡(第2次)(奈良・平安、中・近世)
- 《佐倉市》太田向原遺跡(第8次)(縄文、近世)
生谷松山遺跡(第1・3次)(縄文、古墳、奈良・平安、中世)
神楽場遺跡(第14次)(縄文、古墳)
上座安土遺跡(第2次)(縄文、弥生、古墳、奈良・平安、中・近世)
宮本宮後遺跡C地区(第3次)(縄文、弥生、古墳、奈良・平安、近世)
- 《印西市》天神台遺跡(第17・18地点)(縄文、弥生、古墳、奈良・平安)
- 《四街道市》古屋城跡(古墳、奈良・平安、中世)
- 《栄 町》宮前遺跡(古墳、奈良)
- 《柏 市》花戸原遺跡(第14・16～25次)(縄文、古墳、奈良・平安、中・近世)
中馬場遺跡(第14次)(縄文、奈良・平安、近世)

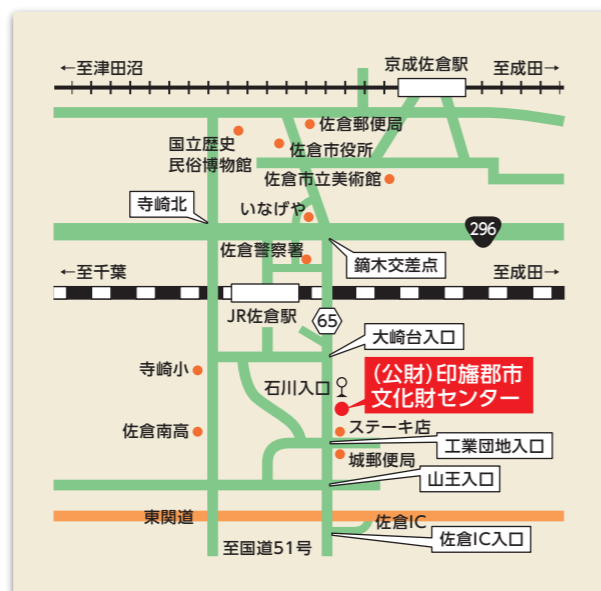
※発掘現場、室内作業は見学いただけます。
ご希望に添えない場合もありますので、
かならず事前にご連絡ください。



《ご案内》

ホームページとスマートフォン版サイトにおいて当センターの最新情報をお伝えしています。ぜひご利用ください。

PCサイト <http://www.inba.or.jp>
スマホサイト <http://www.inba.or.jp/sp>



千葉県佐倉市春路1-1-4 千葉県佐倉市春路1-1-4 FAX 043 (485) 9871 令和6年9月30日
 〒285-0814 千葉県佐倉市春路1-1-4 千葉県佐倉市春路1-1-4 FAX 043 (485) 9871 令和6年9月30日
 千葉県佐倉市春路1-1-4 千葉県佐倉市春路1-1-4 FAX 043 (485) 9871 令和6年9月30日
 千葉県佐倉市春路1-1-4 千葉県佐倉市春路1-1-4 FAX 043 (485) 9871 令和6年9月30日

FIELD BOOK



印西市 西ノ原第1遺跡

西ノ原第1遺跡は、印旛沼の北岸を臨む標高約25mの台地上に所在する後期旧石器時代から中世にかけての複合遺跡であり、今回の調査区は台地縁辺部にあたります。令和5年度に確認調査を実施し、60点以上の石器が出土したことから、令和6年4月から6月にかけて本調査を行いました。その結果、確認調査と合わせて200点以上の石器が出土しました(写真1)。頁岩や黒曜石を主体とし、器種はナイフ形石器や石刃、石錐、スクレイパー、彫器等が出土しました(写真2)。中には石器同士が接合するものも含まれます(写真3)。

周辺の遺跡には、大型のナイフ形石器が出土した東海道遺跡やスクレイパー、彫器が共伴しているトヶ前遺跡B地点など、同じ台地上で同時期の遺跡が認められることから、その関係性について、今後明らかになることが期待されます。



写真1 石器出土状況



遺跡位置図 (S=1/50,000)
①西ノ原第1遺跡 ②トヶ前遺跡 ③東海道遺跡



写真2 出土した石器



写真3 接合した石器

【写真2 組成表】

- ①・②・③: ナイフ形石器 ④: 石錐 ⑤: スクレイパー ⑥・⑦・⑧: 石刃 ⑨: 彫器
⑩: 母岩 使用石材: 珪質頁岩(①・②・④・⑥・⑦・⑧・⑩)、黒曜石(③・⑤・⑨)

注目じゃ!

四街道市 古屋城跡



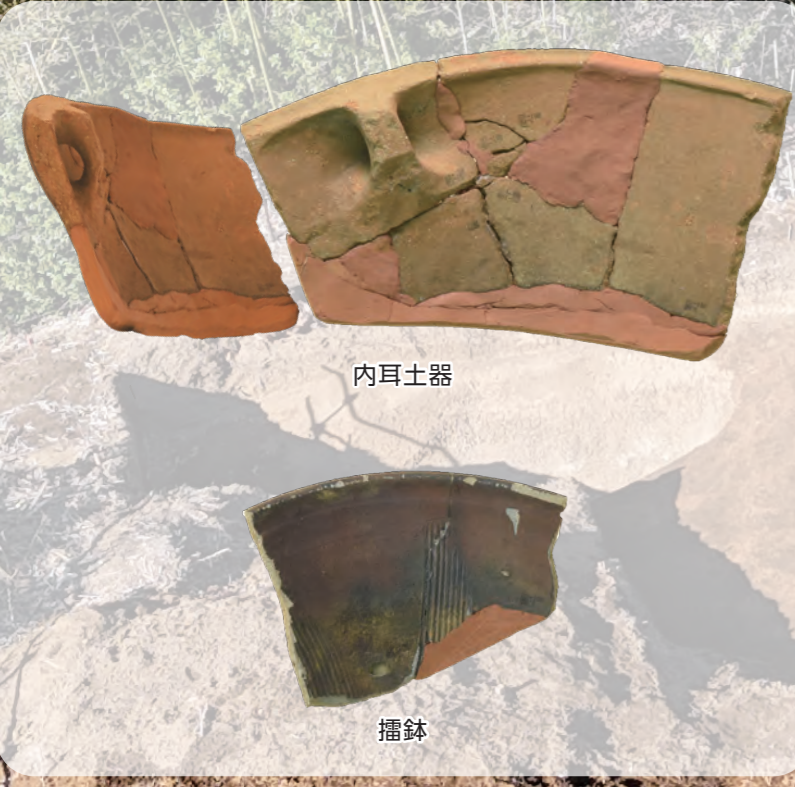
古屋城跡は四街道市もねの里にある中世(戦国時代)の城跡です。現在は古屋城跡広場として利用されており、市の指定史跡にもなっています。古屋城が実際に使われていたのは、15世紀から16世紀であるとされていて、これまで行われた発掘調査でも同時期の遺物が出土しています。

今回の調査では、当時、防禦施設として利用されていたであろう空堀(水の無い堀)を検出しています。空堀は深さ約3m、幅約7mあり、古屋城の主郭(城の中心部分とされる場所)を囲うような形で造られています。空堀の中からは、土器の内側に把手のついた、内耳土器^{とって}と呼ばれるものや、播鉢^{ないじ}などが出土しており、いずれも古屋城が実際に使われていた時期とおおよそ合致しています。

今回の空堀の検出は、古屋城跡での調査で初めてのことです。このことは、古屋城の全容を知るひとつの手掛かりとなり、今後の研究に大きく貢献できるものと考えられます。



古屋城跡空堀推定ライン



内耳土器

播鉢



これが空堀だよ



古屋城跡位置図(1/50,000)